

# 財政状況等一覧表（平成19年度）

(単位:百万円)

団体名 登別市

標準税収入額等 A	普通交付税額 B	臨時財政対策 債発行可能額C	標準財政規模 A+B+C
5,891	4,549	468	10,907

## 1. 一般会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
一般会計	19,212	18,686	527	527	640	27,959	
学校給食事業特別会計	325	325	0	0	119	15	
一般会計等	19,418	18,892	527	527		27,974	

## 2. 公営企業会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入金見込額	備考
国民健康保険特別会計	7,208	6,635	573	573	499	0	0	
老人保健特別会計	6,431	6,427	4	4	524	0	0	
介護保険特別会計	2,780	2,727	53	53	409	0	0	
公共下水道事業特別会計	2,681	2,681	0	0	605	19,816	11,870	法非適用
簡易水道事業特別会計	31	31	0	0	8	58	40	法非適用
カルルス温泉スキー場事業特別会計	98	98	0	0	3	0	0	法非適用
水道事業会計	943	850	93	296	0	5,471	0	法適用
公営企業会計等 計				926		25,346	11,910	

- (注) 1. 法適用企業とは、地方公営企業法を適用している公営企業である。  
 2. 法適用企業に係るもの以外のものについては「総収益」「総費用」「純損益」の欄に、それぞれ「歳入」「歳出」「形式収支」を表示している。  
 3. 「資金剰余額/不足額(実質収支)」は、地方公共団体財政健全化法に基づくものであり、資金不足額がある場合には負数(△)で表示している。  
 4. 「左のうち一般会計等繰入金見込額」は、企業債(地方債)現在高のうち将来負担比率に算入される部分の金額である。

## 3. 関係する一部事務組合等の財政状況

(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等負担見込額	備考
西いぶり広域連合	3,575	3,574	1	1	0	8,927	401	
一部事務組合等 計				1		8,927	401	

## 4. 地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況

(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は 正味財産	当該団体からの 出資金	当該団体からの 補助金	当該団体からの 貸付金	当該団体からの 債務保証に係る 債務残高	当該団体からの 損失補償に係る 債務残高	一般会計等 負担見込額	備考
登別市土地開発公社	3	100	47	0	0	3,156	0	3,104	
(財)登別市文化・スポーツ振興財団	13	82	50	17	0	0	0	0	
地方公社・第三セクター等 計			97	17	0	3,156	0	3,104	

(注) 損益計算書を作成していない民法法人は「経常損益」の欄には当期正味財産増減額を表示している。

## 5. 基金の状況

(単位:百万円)

充当可能基金名	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A
財政調整基金(a)	867	701	△ 166
減債基金(b)	328	205	△ 123
その他充当可能基金(c)	1,906	2,050	144
充当可能基金 計(d)	3,101	2,956	△ 145

(単位:百万円)

その他基金名	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A
備荒資金(超過分)(e)	515	519	4
合併特例債により達成された基金(f) (該当する市町村のみ記載)	-	-	-
その他(d~fいずれにも当てはまらない基金)(g)	-	-	-
合計(d+e+f+g)	3,616	3,475	△ 141

- (注) 1. 「充当可能基金」とは「将来負担比率」の算定において、一般会計等が今後負担すべき地方債の償還などへ充てることができる基金の額をいう。  
 2. 上記基金は地方債の償還等に充当可能な現金、預金、国債、地方債等の合計額であり、貸付金及び不動産等を含まない。

## 6. 財政指標の状況

財政指標名	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A	早期健全化 基準	財政再生 基準	資金不足比率 (公営企業会計名)	平成18年度 A	平成19年度 B	差引 B-A
実質赤字比率	6.98	4.82	△ 2.16	△ 13.19	△ 20.00	公共下水道事業特別会計		0.0	
連結実質赤字比率		13.32		△ 18.19	△ 40.00	簡易水道事業特別会計		0.0	
実質公債費比率	17.0	13.7	△ 3.3	25.0	35.0	カルルス温泉スキー場事業特別会計		0.0	
将来負担比率		78.3		350.0		水道事業会計		32.4	
財政力指数	0.473	0.483	0.010						
経常収支比率	95.3	99.6	4.3						

- (注) 1. 「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「資金不足比率」は負数(△)で表示しており、収支が黒字の場合には便宜的に当該黒字の比率を正数で表示している。  
 2. 「資金不足比率」の早期健全化基準に相当する「経営健全化基準」は、公営競技を除き、一律△20%である(公営競技は0%)。